

## 報 道 資 料

平成29年12月4日（月）

件 名 C-2輸送機の岩国への移駐の説明に係る中国四国防衛局長の来庁について

概 要 本日、C-2輸送機の岩国飛行場への移駐についての説明がありましたので、下記のとおりにお知らせします。

### 記

1. 日 時：平成29年12月4日（月）9時～9時15分
2. 場 所：岩国市役所 市長応接室
3. 来庁者：中国四国防衛局長 赤瀬 正洋（あかせ まさひろ）
4. 応対者：岩国市長 福田 良彦（ふくだ よしひこ）
5. 説明の概要

#### **C-2輸送機の事故に関する説明**

- 11月22日に発生した事故について、米側からは以下の説明を受けた。
  - ① C-2については、米海軍航空システム司令部の技術者等が、事故が発生した11月22日以降、徹底的なメンテナンス検査を実施し、完全に任務に復帰できることを確認した。
  - ② C-2は、技術上の問題や整備上の問題がないことを確認した。
  - ③ C-2は、これまでの約40年間に人命に関わるような事故もなく、世界中で運用を続けており、米海軍の航空機の中で、最も安全な機体の1つである。
  - ④ 米側としては、引き続き、航空機の安全管理に努める。
- これに対し、防衛省としては、米側に対し、米軍機の飛行に際しては、安全面に最大限の配慮をするよう申し入れた。
- 12月3日（日）、C-2は空母ロナルド・レーガンから厚木飛行場へ飛来したが、米側から、C-2は問題なく安全に飛行したとの説明があった。
- いずれにしても、防衛省としては、米軍機の運用に当たっては、安全の確保が大前提であると認識しており、引き続き米側に対し、安全面に最大限配慮するとともに、地域住民への影響を最小限にとどめるよう、強く求めている。
- また、C-2の事故については、引き続き情報収集に努め、新たな情報が得られ次第、地元の皆様に対し速やかに提供するなど、適切に対応してまいります。

#### **C-2輸送機の岩国への移駐に係る説明**

- 今般、米側から、C-2の部隊は、早ければ12月4日（月）に岩国飛行場へ移駐するとの説明があった。
- 具体的な航空機の機数については、米側は公表を差し控えているが、厚木飛行場の現状を踏まえると、当面の間は1機で運用されることになると考えている。
- 各部隊の移駐の具体的な時期については、米軍の運用の状況や人員、機材などの準備の進捗状況を踏まえ、米側が判断することになるが、その様な条件が整ったことから、今般、C-2の部隊が移駐することになったものと考えている。

## C-2輸送機の岩国への移駐に対する市から国への要請

- C-2輸送機の事故について、引き続き事故に関する情報収集に努められるとともに、事故調査報告書が公表された段階で、速やかに今回の事故についての詳細な説明を行うことを要請する。
- また、最近、米軍機の事故等が相次いで発生しており、再発防止策の徹底など、これまでの事故処理の対応が十分であったのかどうか疑念を持たざるを得ないとの声もある。
- ついては、今回の事故も含め、これまで講じられてきた安全対策が真に実効性あるものになるよう、米側の対応を国としてしっかりフォローしていただきたい。
- C-2については、運用して約40年間、人命に関わる事故が無かったという説明があったが、そういった機体が事故を起こしたということは憂慮すべきだと思っている。老朽化を含めてしっかりと今回の事故の原因を解明し、すべての航空機について今一度、安全運用、整備点検をしていただきたい。
- 先週、スーパーホーネット等、艦載機の移駐が完了したということだが、移駐に伴う基地周辺住民の方々が抱えている騒音や事故等への不安が軽減されるよう、引き続き、配慮をお願いしたい。
- また、この度の空母艦載機の移駐については、関連機の事故が発生したとはいえ、米軍の運用という理由のみで、地元へ移駐時期の変更理由など、十分な情報提供がなされない中で、進められたものと感じざるを得ない。米軍の運用に関わる事柄であっても、地元へ情報提供として、開示できる情報については、しっかりと提供してもらいたい。
- 国においては、移駐に伴う基地周辺住民の不安など、地元が置かれている実情をしっかり受け止め、今後は、地元への詳細かつ迅速な情報提供ができるよう、米側との調整に努めることを要請させていただく。

### 6. 市長コメント

本日、C-2輸送機の事故（11月22日に発生）と移駐計画について説明がありましたが、説明を受けた際、事故については、事故原因の究明や再発防止策の徹底などこれまで講じられてきた安全対策が真に実効性のあるものになるよう要請するとともに、移駐後の騒音対策や航空機の安全性の確保などについて改めて要請しました。

また、この度の移駐について、関連機の事故が発生したとはいえ、米軍の運用という理由のみで、地元への十分な情報提供がなされない中で進められたと感じており、今後、米軍の運用に関わる事柄であっても、地元への情報提供については、しっかりと提供されるよう要請しました。

C-2輸送機を含め、空母艦載機の移駐については、市としまして、引き続き、県や関係市町と連携して航空機騒音や運用などの実態把握に努め、問題があれば必要な対応を国や米側に求めてまいりたいと考えています。